

simc News Letter

Sendai International Music Competition

2014年6月号

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第6回仙台国際音楽コンクール 【2016年開催決定!!】

第3回仙台国際音楽コンクール優勝者のアリョーナ・バーエフさん(ヴァイオリン部門)と津田裕也さん(ピアノ部門)が、仙台フィルハーモニー管弦楽団との共演によるコンチェルトで仙台の聴衆を魅了してくれました。今回のニュースレターでは、その演奏レポートをご紹介します。

仙台フィルハーモニー管弦楽団 第282回定期演奏会を聴いて



スイスで行われているセイジ・オザワ国際アカデミーで出会ったアリョーナ・バーエフと山田和樹の共演は、まさに新しい才能がお互いの個性を知り、それを活かしながら共に成長して行く、その歩みを感じる演奏となった。

選ばれた作品はプロコフィエフのヴァイオリン協奏曲第2番。独奏ヴァイオリンが低音部で呟くように始まり、そのテーマがオーケストラの中で次第に展開される。そこに乗って、独奏ヴァイオリンがさらに重厚な音楽を作り出して行く第1楽章。そして独奏ヴァイオリンとオーケストラの木管楽器などの各パートが室内楽のように会話する第2楽章。絶妙のコミュニケーションをソロ、指揮者、オーケストラが聴かせてくれた。そしてダイナミックな第3楽章では独奏ヴァイオリンの魅力が花開く。軽快なリズム、活躍するカスターネットの音色に彩られるヴァイオリン。すべての瞬間に、お互いの呼吸をよく感じ取り、それを音楽として表現する、その協奏曲の楽しさを教えてくれる演奏に、会場からは大きな拍手、歓声がわき起こった(5月17日)。

片桐 卓也(音楽ライター)

才気と自信に満ちたベートーヴェン ～充実の津田裕也



この日のオーケストラ・スタンダードは、開演前から会場に特別の高揚感があった。それは、飯森泰次郎指揮、仙台フィルのステージに、第3回仙台国際音楽コンクールの優勝者、ピアニスト津田裕也が登場するからである。津田裕也は、地元仙台の出身で、東京藝大・同大学院、ベルリン芸大で学んだ俊英だ。

津田が演奏したのは、ベートーヴェン作曲ピアノ協奏曲第3番。その演奏は、果たして真摯に積み重ねた演奏家としての経験と音楽が十全に発揮された、たいへん聴き応えある見事なものだった。まず、第1楽章、ベートーヴェンのハ短調の意味を真正面から捉えた上昇階の才気と力感に満ちた導入に驚かされる。そして主題群を確信をもって弾き進み、展開していく。カデンツァのカンタービレにも惚れ惚れした。トリルの美しさも特筆である。第2楽章のソロの語り口の美しさ、第3楽章の明暗の生き生きした対比と仙台フィルとのアンサンブルも素晴らしかった。…大喝采! 津田裕也はいったい何回ステージに呼び戻されたことだろう。会場は、才能溢れる若者の前向きなエネルギーの充実の演奏で、幸福感に満たされたのである。

下田 幸二(音楽評論家・ピアニスト)

公演概要

「仙台フィルハーモニー管弦楽団第282回定期演奏会」

日時: 2014年5月16日(金)午後7時開演

17日(土)午後3時開演

会場: 日立システムズホール仙台 コンサートホール

指揮: 山田 和樹

ヴァイオリン: アリョーナ・バーエフ

ソプラノ: 高橋 絵理

プロコフィエフ: ヴァイオリン協奏曲第2番 ト短調 作品63

マーラー: 交響曲第4番 ト長調

公演概要

「仙台フィルが市民に贈る オーケストラ・スタンダードvol.9」

日時: 2014年5月30日(金)午後7時開演

会場: 日立システムズホール仙台 コンサートホール

指揮: 飯守 泰次郎

ピアノ: 津田 裕也

ベートーヴェン: バレエ音楽「プロメテウスの創造物」序曲 作品43

ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第3番 ハ短調 作品37

ベートーヴェン: 交響曲第6番 ヘ長調 作品68「田園」